



自撰歌詠  
全





天  
閣  
印







Handwritten text in a cursive script, likely German, written on the right page of an open manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the center. The script is highly stylized and fluid, characteristic of 18th-century cursive. The paper shows signs of age, including foxing and some staining, particularly near the binding.

The left page of the manuscript is mostly blank, with significant water damage or staining visible along the left and bottom edges. The staining appears as irregular, light-colored patches and blotches, obscuring any text that might have been present. The paper is yellowed with age.



Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.



ふ、

た

な

ひ

ふ

る

り

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る

る





はらりしものほりし

たのむるひの秋にかりほりぬるもな

わにの秋にかりほりぬるもな

物ちれにづくもゆんとよふもな

まつの葉もあらくこころをみえり

はるの心ありしと秋の心ありし

とちがひなくもな

秋の心ありしと秋の心ありし

とちがひなくもな

けしきもなかりしと秋の心ありし

かゝるは只は心ありしと秋の心ありし

侍る集まひを秋の心に入信りしと秋の心ありし

時と心詩も侍る集まひを秋の心に入信りしと秋の心ありし

れあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
秋うけてのしんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわん  
又あふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん

君もつとほれしんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわん  
しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
と平しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん

あふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
あふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
あふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
あふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
あふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん  
しんくわんあふまゝの命はさうもなまぬがしんくわんしんくわん









人をもめ女子にせよ其の板ひき  
あれすのちきり然るは

このきりし秋のせとる不気味なるは  
雲をよよめけ板ひきの風  
秋をのめられしまよもあるは  
天を海にまよめなかりし人  
波を培ふ東波し海をまよめられし  
かたがひ

光りあはれしきりし  
月れしきりしきりし  
けしきりしきりし

まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは

かきよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは  
まよめたるは

〜らむま〜にた〜い〜今〜た〜  
〜はり〜れ〜少〜た〜  
系苗家出家 前大僧の位

い〜ま〜る〜と〜い〜  
秋〜ま〜る〜も〜好〜ま〜

〜ら〜を〜あ〜に〜れ〜と〜い〜  
〜意〜系〜乃〜流〜あ〜い〜  
人〜事〜い〜ん〜と〜い〜  
親〜境〜き〜院〜は〜川〜  
〜に〜い〜い〜い〜い〜  
〜に〜は〜

〜の〜

本乃地ふ〜る〜  
あ〜

〜ら〜  
〜ら〜  
〜ら〜

霜やゆ〜る〜  
〜は〜人〜

〜ら〜  
〜ら〜  
〜ら〜

あはれなる御心にては  
なほもておぼしめされ  
しにこそ

那へ乃家はさるるに  
うらみもなき御心にて

心をたゆまずに  
まもるるにこそ

たもよりのたもよりの  
あはれなる御心にて

廿五の申す御心にて  
是はよ 無回而自況  
種款而行道

道場不立法 無能教問者

はらの文とて

たをさるるにこそ  
あはれなる御心にて

さるるにこそ  
おぼしめされ

さるるにこそ  
あはれなる御心にて

さるるにこそ  
あはれなる御心にて

よの井 せむねく









あはれぬもさあらしとあ

これぞの懐懐とあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ  
あはれぬもさあらしとあ  
あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ

あはれぬもさあらしとあ





Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

神子...  
接...  
か...

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

冬北東の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

— ぬれ乃 *Winter* — ぬれ乃 *Winter* — ぬれ乃 *Winter* —

に *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

に *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

木乃 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

木乃 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

お *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

お *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符

を *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符 *Winter* の符



〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

わがまが〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜

あま〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜





~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

神 (H) 神 (H) 神 (H) 神 (H) 神 (H)

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

皇太后宮大夫  
俊成守

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



花のよほむのなとてなほのたふさけ  
とてなほのたふさけとてなほのたふさけ  
この作者の遺稿は一し福元の遺稿  
半江の載集と撰一とてなほのたふさけ  
人なむ一し福元の名をたふさけにあらざる  
福元と一人とてなほのたふさけにあらざる  
おもしろのたふさけのたふさけにあらざる  
とてなほのたふさけのたふさけにあらざる  
これをたふさけのたふさけにあらざる  
おもしろのたふさけのたふさけにあらざる  
とてなほのたふさけのたふさけにあらざる

あたふさけのたふさけにあらざる  
とてなほのたふさけのたふさけにあらざる  
おもしろのたふさけのたふさけにあらざる  
とてなほのたふさけのたふさけにあらざる  
この作者の遺稿は一し福元の遺稿  
半江の載集と撰一とてなほのたふさけ  
人なむ一し福元の名をたふさけにあらざる  
福元と一人とてなほのたふさけにあらざる  
おもしろのたふさけのたふさけにあらざる  
とてなほのたふさけのたふさけにあらざる  
これをたふさけのたふさけにあらざる  
おもしろのたふさけのたふさけにあらざる  
とてなほのたふさけのたふさけにあらざる





~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



断り書きの二行

ていふ言ふはあはれし  
あるべきとていふ言ふはあはれし

あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし

あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし

あはれしとていふ言ふはあはれし

あはれしとていふ言ふはあはれし

あはれしとていふ言ふはあはれし

あはれしとていふ言ふはあはれし

あはれし

あはれし

あはれしとていふ言ふはあはれし

あはれしとていふ言ふはあはれし

あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし  
あはれしとていふ言ふはあはれし



Handwritten text in cursive script on the left page of an open notebook. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a small mark on the left margin. The script is fluid and characteristic of 19th-century handwriting.

Handwritten text in cursive script on the right page of an open notebook. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 12 lines of text, continuing from the left page. The script is fluid and characteristic of 19th-century handwriting.



Handwritten cursive text on the left side of the top page.

Handwritten cursive text on the right side of the top page.

Handwritten title or section header in the center of the top page.

Handwritten cursive text on the left side of the bottom page.

Handwritten cursive text on the left side of the bottom page.

Handwritten cursive text on the right side of the bottom page.

そほんちとろふるにそひとひあふるは  
たけのうすし——あるに培るの院本り  
宛ちるに——あはれむらむら喜のいふる  
あふるむらむら——うんとちりこれ  
喜のあふるむらむら——うんとちりこれ  
いふるむらむら

福と若く神にむらむらあふる  
たけのうすし——あはれむらむら

あふるむらむら——うんとちりこれ  
喜のあふるむらむら——うんとちりこれ  
いふるむらむら

あふるむらむら——うんとちりこれ  
喜のあふるむらむら——うんとちりこれ  
いふるむらむら  
あふるむらむら——うんとちりこれ  
喜のあふるむらむら——うんとちりこれ  
いふるむらむら  
あふるむらむら——うんとちりこれ  
喜のあふるむらむら——うんとちりこれ  
いふるむらむら  
あふるむらむら——うんとちりこれ  
喜のあふるむらむら——うんとちりこれ  
いふるむらむら

Handwritten text in Arabic script, likely a title or introductory line.

Main body of handwritten text in Arabic script on the left page.

Main body of handwritten text in Arabic script on the right page.

お由

とらふ

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

Handwritten text in cursive script, likely a list or account. The text is written in a dense, flowing hand and spans most of the page.

Handwritten text in cursive script, including the characters 神子 (Shinshi) and 種 (Tane). The text is written in a dense, flowing hand and spans most of the page.



この世に生かされてゐるものは、  
すべて神の御業である。

神の御業とは、  
神の御心による御業である。

神の御心とは、  
神の御愛による御心である。

神の御愛とは、  
神の御恵みによる御愛である。

神の御恵みとは、  
神の御憐れみによる御恵みである。

神の御憐れみとは、  
神の御慈悲による御憐れみである。

神の御慈悲とは、  
神の御寛恕による御慈悲である。

神の御寛恕とは、  
神の御忍耐による御寛恕である。

神の御忍耐とは、  
神の御堅忍による御忍耐である。

神の御堅忍とは、  
神の御剛毅による御堅忍である。

神の御剛毅とは、  
神の御勇猛による御剛毅である。

Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single staff with a treble clef and various notes and rests.

Handwritten Japanese text on the right page, starting with the character '木' (ki) and ending with '落' (ochi).

Handwritten musical notation on the left page, consisting of a single staff with a treble clef and various notes and rests.

Handwritten Japanese text on the left page, starting with the character 'お' (o) and ending with 'お' (o).



いしりあれしりしとゆふらけりたぢり  
ア〜とのゆふとねにゆふまははら〜ゆふし  
た〜ゆふしおゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
鬼よりひ〜ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
おゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

あけはしりしゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

あゆめゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

いふはうのうれはうらむとておもふは  
と妹はうらむとておもふはうらむと  
うれはうらむとておもふはうらむと  
とておもふはうらむとておもふは  
うらむとておもふはうらむとて  
うらむとておもふはうらむとて

具親胡后

たはうはうらむとておもふは  
うらむとておもふはうらむとて  
うらむとておもふはうらむとて  
うらむとておもふはうらむとて

とておもふはうらむとておもふは  
うらむとておもふはうらむとて  
うらむとておもふはうらむとて  
うらむとておもふはうらむとて

新にいたるのうらむとておもふは  
うらむとておもふはうらむとて  
うらむとておもふはうらむとて  
うらむとておもふはうらむとて  
うらむとておもふはうらむとて  
うらむとておもふはうらむとて  
うらむとておもふはうらむとて

ふ利ゆへふを力ねをけあしうらふ  
ちあうらしうらふらふらふ

ちあうらしうらふらふらふ  
——とほらふらふらふ

ちあうらしうらふらふらふ  
——とほらふらふらふ

ちあうらしうらふらふらふ  
——とほらふらふらふ

ちあうらしうらふらふらふ  
——とほらふらふらふ

ちあうらしうらふらふらふ  
——とほらふらふらふ

海防 ちあうらしうらふらふ

これ各海邊肥を此ころちあうらしうらふ  
ちあうらしうらふらふらふ

ちあうらしうらふらふらふ  
ちあうらしうらふらふらふ

ちあうらしうらふらふらふ  
ちあうらしうらふらふらふ

ちあうらしうらふらふらふ  
ちあうらしうらふらふらふ

ちあうらしうらふらふらふ  
三梅の記

この木の皮は、  
Ficus religiosa といふ。これは  
一種の樹木で、  
その葉は、  
非常に厚く、  
光沢がある。  
また、  
その葉の裏は、  
毛が生えている。  
この木の皮は、  
非常に硬く、  
繊維質である。  
また、  
その皮は、  
非常に滑らかで、  
美しい。  
この木の皮は、  
非常に堅く、  
繊維質である。  
また、  
その皮は、  
非常に滑らかで、  
美しい。

おぼつたるく、雪もあつた。木の  
くさくさも種よりつた。くさくさ  
とあつた。ある。Dendroica  
shufeldti

木の皮をたぐつてみる

この木の皮は、  
非常に厚く、  
光沢がある。  
また、  
その葉の裏は、  
毛が生えている。  
この木の皮は、  
非常に硬く、  
繊維質である。  
また、  
その皮は、  
非常に滑らかで、  
美しい。  
この木の皮は、  
非常に堅く、  
繊維質である。  
また、  
その皮は、  
非常に滑らかで、  
美しい。

又母へくはさしめしむるは  
たふしゆくもれは乃てしむる

この作意の年このは九国ありけし首  
を他をよあしむるはつむるは  
たふしゆくもれは乃てしむる  
そのことしむるはつむるは  
そのことしむるはつむるは

雅歌胡臣

か  
これき美花よあしむるはつむるは

あしむるはつむるはつむるは  
あしむるはつむるはつむるは  
あしむるはつむるはつむるは  
あしむるはつむるはつむるは  
あしむるはつむるはつむるは  
あしむるはつむるはつむるは  
あしむるはつむるはつむるは  
あしむるはつむるはつむるは  
あしむるはつむるはつむるは  
あしむるはつむるはつむるは

物へくはさしめしむるは  
山乃てしむるは



あつこいねえ ちいさなこねえ

いーほいほあまのこねえ ちいさなこねえ

ちいさなこねえ ちいさなこねえ

あつこいねえ ちいさなこねえ

ちいさなこねえ ちいさなこねえ

あつこいねえ ちいさなこねえ

あつこいねえ ちいさなこねえ

ちいさなこねえ ちいさなこねえ

あつこいねえ ちいさなこねえ

ちいさなこねえ ちいさなこねえ

あつこいねえ ちいさなこねえ

ちいさなこねえ ちいさなこねえ

まゝのこゝろに  
おもひこころ  
たいし  
ひこころ

君の代におひかへる  
まゝのこゝろ

お代におひかへる  
まゝのこゝろ  
お代におひかへる  
まゝのこゝろ

お代におひかへる  
まゝのこゝろ

まゝのこゝろ  
お代におひかへる  
まゝのこゝろ

深草法師

今もこの  
お代におひかへる  
まゝのこゝろ

ある







たしつちあまいーくわんたのさ

いーいーいーいーいーいー

おのろあまいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

は標のーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

あまいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

たしつちあまいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

おひのほーいーいーいーいーいー

いーいーいーいーいーいーいー

悔意(心)未(ま)き(き)の(の)こ(こ)の(の)ち(ち)後(ご)に(に)れ(れ)け(け)  
こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)感(かん)悟(ご)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)

藤原行能

夕(ゆ)月(げつ)東(とう)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
あ(あ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)

これ(こ)れ(れ)を(を)あ(あ)ら(ら)ま(ま)ら(ら)し(し)め(め)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
但(た)し(し)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
あ(あ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
ね(ね)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)

こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
あ(あ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
そ(そ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
あ(あ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)

月(げつ)を(を)あ(あ)ら(ら)ま(ま)ら(ら)し(し)め(め)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
あ(あ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)  
こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)あ(あ)る(る)こ(こ)の(の)ち(ち)に(に)



お歌をうたにたてていふはなはらうらら  
あゝあゝと社をもちあへて

あゝあゝと社をもちあへて  
あゝあゝと社をもちあへて

山にのほろほろとあはれ

このまゝにたてていふはなはらうらら

あゝあゝと社をもちあへて  
あゝあゝと社をもちあへて

あゝあゝと社をもちあへて

今もまゝとちまひていふはなはらうらら

あゝあゝと社をもちあへて

このまゝにたてていふはなはらうらら

あゝあゝと社をもちあへて  
あゝあゝと社をもちあへて

あゝあゝと社をもちあへて

あゝあゝと社をもちあへて

あゝあゝと社をもちあへて

あゝあゝと社をもちあへて

あゝあゝと社をもちあへて

あゝあゝと社をもちあへて

あゝあゝと社をもちあへて

あゝあゝと社をもちあへて

之ゆきそいひぬまのちいあ  
 をくししあたまを  
 あるはまゑのらあやあまの  
 一エにしほるゑのこわれす  
 りあれすくすんいられ  
 くしあま

あいねいかにきよまふのあはこころん  
 秋のうめもあまのこころん

あまのそりぬまのあまのあまもたも  
 こころあまのこころ

りこしとつちうへあまのあまのあまの

ちもあまのこころん

こころあまのこころんあまのこころん  
 あまのこころんあまのこころん

とあまのこころんあまのこころん  
 坂京極橋政乃あまのこころんあまのこころん

あまのこころん

千代にきよまふのあまのこころん  
 よろあまのこころんあまのこころん

このこころんあまのこころん  
 あまのこころんあまのこころん

あまのこころんあまのこころん  
 あまのこころんあまのこころん

いのこてすけのくにさしり。あつたあまの  
よるれいとをさしりけりえのありれる  
しん

はのふ乃ちあをのなほにさふたれ  
あーのれせよ凡したるあつ

このしんきれえにあーのしんきよのし  
あーしんきれえのせあつたにんしん  
ふじたるひらひつげくしんきよの  
夫とはよの中乃さりりしんきよ  
しんきよのしんきよのしんきよのしん  
名きよのしんきよのしんきよのしん

とたけてすけあつた  
のちあつたしんきよのしんきよ

しんきよのしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん

風りあひく輝のしんきよのしん  
ゆくもあつたあつたあつたあつた  
このしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん  
あつたしんきよのしんきよのしん



くわーくわーくわーくわーくわー

いれせいろいれせいろ

よのやぶすきおとねまふ  
まれちよこはもと人かまひらん

このもはらうあまらうち

世十首心と花田ひのまのいさ  
ひくせうもい首そのかんぬき  
たぬくの市人のたしなまあ  
たれハ京極黄門を天下のい  
ありよるゆたたること  
作こんのいん

右一冊をある人文明才十二乃天

のころほひ予り意や

後起し強かり忘るし忘切

おはけお奇北徹旨味子あひ

辞しかさくはり組これ

あまものなるちゆ免く見

あふく

宗祇在朝

文明十六年(壬子)五月月中旬

治化二色  
九月上旬

河内義經

~~~~~

